

発 言 内 容

若松総務課長補佐 定刻となりましたので、ただいまから令和5年度氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。委員のみなさまにはご多用のところご出席賜り、誠にありがとうございます。はじめに市長よりご挨拶申し上げます。

林市長 令和5年度氷見市行政改革推進市民懇話会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

皆様方におかれましては、本日は、何かとご多用のところ、本懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、行政改革推進市民懇話会委員の就任をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただき、深く感謝申し上げます。

加えまして、皆様方には、日頃から市政の発展に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

現行の「氷見市行政改革プラン」は、令和4年度から令和8年度までを計画期間とし、第9次氷見市総合計画を下支えする計画として策定しており、前プランから引き続き、財政の収支均衡に取り組むとともに、新たにデジタル化を中心とした行政サービスの改革を推進するなど、複雑化する市民ニーズに応えながら効率的・効果的な行政運営を目指しています。

本日は、プランの計画期間の初年度である令和4年度が終了し、設定した数値目標の実績や取組みの進捗状況について、委員の皆様にご報告させていただくとともに、現時点での中長期の財政見通しについてお示しし、今後の取組みについての検討をお願いするものであります。

本市においては、今後も人口減少が見込まれる中、子育て支援やデジタル化の推進、さらには長期化する物価高への対応など、喫緊の課題にも的確かつスピード感を持って対応していく必要があります。

人口が減少しても市民サービスの質を低下させることなく、幸せに暮らせるまちづくりの実現に向け、また去る5月には氷見市はSDGs未来都市にも選定されておりますが、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」施策にも取り組みながら、本市の行政改革の一層の推進を図り、持

続可能な自治体経営の確立に努めてまいりますので、委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日までご出席の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。本日は、どうか、よろしく願いいたします。

若松総務課長補佐 本題の協議事項に入ります前に、委員のみなさまのご紹介を事務局の方でさせていただきます。

氷見市自治振興委員連合会会長の大嶋様です。

氷見市小中学校PTA連合会会長の笠島様です。

氷見市社会福祉協議会会長 高木様の代理、七分様です。

氷見市商工会議所会頭の寺下様です。

氷見市青年会議所理事長の堂尻様の代理、松木様です。

氷見市観光協会代表理事会長の松原様です。

氷見市事業所協会副会長の大石様です。

氷見市金融協会会長の村田様です。

氷見市連合婦人会会長の高木様です。

連合富山高岡地域協議会氷見地区協議会議長の川邊様です。

連合富山高岡地域協議会氷見地区協議会副議長の山口様です。

氷見市情報公開・個人情報保護審査会委員、氷見市行政不服審査会委員の加野様です。

氷見市商工会議所議員、社会保険労務士の宮本様です。

氷見市コンプライアンス委員の吉田様です。

なお、島委員、南委員、森本委員につきましては、本日欠席のご連絡をいただいております。

次に、会長と副会長の指名ですが、氷見市行政改革推進市民懇話会設置要綱に基づき、市長が指名することとなっております。このたび、会長を自治振興委員連合会会長の大嶋様に、副会長を氷見市連合婦人会会長の高木様に指名させていただきました。

よろしく願いいたします。

それでは、大嶋様、高木様には会長席、副会長席にお移りいただきまして、大嶋会長にはこれより進行をお願いしたいと思います。

大嶋会長 今ほどご紹介にあずかりました大嶋でございます。よろしくお願いいたします。皆様方の熱心で活発な話し合いによりまして、この行政改革推進市民懇話会が実りあるものになるように祈念しております。よろしくお願いいたします。これより着座にて進めさせていただきます。協議案件に入りたいと思いますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、発言の要点を、委員名を伏せて公表したいと思いますので、ご了承よろしくお願ひします。

議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でお願いしたいと思ひます。

それでは、議事資料を一括して、事務局に説明をお願いいたします。

天坂総務課長 【資料1】「氷見市の行財政改革について」、
【資料2】「氷見市行政改革プラン取組実績等一覧表」説明

蔵田財務課長 【資料3】「氷見市中長期財政見通し（令和5年度～令和14年度）」説明

大嶋会長 どうも、ありがとうございました。

今ほど詳しく説明していただきましたが、説明に対するご質問、ご意見、ご提案等がありましたらよろしくお願ひいたします。

せっかくそれぞれの立場で参加していただいておりますので、順番にご意見あるいはご質問などありましたらお願ひします。

委員 将来の見通し等、予測に関することが多いと思ひますので、この先も注意深く経済の動向、経済成長率等を見守っていただき、健全な財政運営に努めていただければと思ひます。

委員 取組実績一覧表の17番「多様で柔軟な働き方の推進」で、男性の育児休業の取得率50%の目標に対し、令和4年度は0%でした。氷見市の職員数は、類似団体と比べて若干少なめということで、非常に適正な職員配置に努めておられますが、ギリギリの職員数で男性の育児休業を取得するためにどういったことを心がけているのでしょうか。

天坂総務課長 今年度は11月末までで、対象職員6人のうち2人が取得し、取得率としては増えてきたと思います。

この2人は1週間以内の短期間の取得でありました。業務については、長期間休むことはなかなか難しいので、各職場で協力し合い、その職員がいなくても他の職員が業務を代替できるという体制を整えていくことで取得を推進していきたいと思っております。その旨、所属長にもお願いをして、本人と話をしていただき、取得に努めている状況です。

委員

私はこの会議に何度か出させていただいておりますが、以前より、総合的な資産の変動などを、民間でいう貸借対照表、損益計算書などに表せないかと言わせていただいております。国からの指針もあったようですが、今年3月に令和3年度分までホームページ等に載せていただいているようであります。それによると、令和3年度では、いわゆる行政コストが207億円で、純資産変動額が約プラス8.5億円となっております。減価償却も反映されていますし、交付税等があるにしろ、いわゆるプライマリーバランスがプラスになって、それが貸借対照表にも反映されているということで、我々にとっては非常に分かり易い表だと思っております。また、中長期の財政見通しについても色々な指標があるかと思っておりますが、よく計算されていると感じました。それから、行政改革プランでは、概ね達成しているという項目も多くなっていると思います。あえて一つだけ言わせていただければ、ふるさと納税の数値目標が4億円のところ、去年は6億円ということで達成となっております。中長期財政見通しでは5億円と計算されているようですが、いわゆる氷見のポテンシャルとしてはもう少しあるのではないかと思いますので、その辺の指標をもう少しプラスしてはいかがでしょうか。

石田産業振興部長 ふるさと納税の返礼品の拡張に努めまして、5億円あるいはそれ以上の金額を目指すべく取り組みたいと考えております。5億円からもう一つ上乘せすればというご意見ですが、実現できますよう我々も努力したいと考えております。

委員 市民への広報的な観点から、一つ意見を申し上げます。私が所属しております団体の30名弱のメンバーの中でも、市の行政改革プランや総合計画を一読したことある人は、おそらく1人いるかいないかのレベルだと思えます。今日、内容を聞かせていただきましたところ、すごく理解できます。市全体の発展を考える際に一番近道となるのが、市民1人1人がこのまちをより良くしたいという思いを持って、市の動きにも共感を持って協力してくれることではないかと思えます。そういう点で、プランの中の「SNSと連携した効果的な情報発信」において、こういう行政改革プランや総合計画、市のビジョンなど、市民の方がポップにキャッチにわかるような広報ができれば、計画がより実行に繋がっていくのではないかと思えます。

出戸企画政策部長 私どもは市民の皆様方と一緒に総合計画や色々な計画を作っていきたいと思っております。やはり市だけでは、取組みは絶対成り立たないものでございます。そのため総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略など、それぞれの計画の策定等についても皆様方に参加していただき、その発信にも努めてまいります。まち・ひと・しごと総合創生総合戦略については、計画期間が来年度までとなっておりますので、来年度新たに策定させていただきます。現在、LINEを強化しており、9月にリニューアルしましたので、委員からいただいたご意見も踏まえ、随時発信してまいります。

大嶋会長 第9次総合計画はどのような発信をされているのでしょうか。

出戸企画政策部長 第9次総合計画は策定しまして2年目となります。その進捗について総合計画の審議会でも説明させていただきたいと思っております。そのような情報も発信してまいります。

委員 実質公債費比率も12%台ということで、15%を超えると警戒、20%を超えると危険と言われている中、この数値は本当に素晴らしい、皆さんのお力の賜物だと思います。投資的経費の中には、改修等や消防救急デジタル関係のものもありますが、市長が目指す「住みよいまち氷見」のため

に、水道料を下げる施策や氷見市の美観の向上に向けた施策をもっと推し進めていただくことにより、氷見を訪れる方が増えれば、氷見の税収を押し上げることに繋がります。そういう意味では、インバウンドの誘客や観光客の拡大に向けての戦略的な投資というものも更に検討していただければありがたいと思います。

神代建設部長 水道料金の件ですが、資料2の8番のとおり、管路の耐震化を進めております。氷見市においては、耐震化されていない管路が非常に多いため、現在その耐震化を進めております。国の平均の耐震化率に比べて大幅に遅れている状態であり、これを着実に進めていかなければならないという状況です。その中で、収支バランスを見ながら整備を進めていくことが必要ですので、委員が言われる水道料金の値下げについては、なかなか難しいと考えております。

氷見市では景観計画を策定しており、昨年度から、国道415号線の氷見インターから漁港までの道路をシンボルロードとして位置づけており、重点候補地ということで、景観づくりに取り組んでいるところです。昨年、今年と芸術文化館の前で色々なイベント活動を行い、まずは人の賑わいづくりということから、沿道についてどのような景観が良いか検討しているところです。

委員 市内中心商店街は決して美観とは思いませんので、そこを行政と民間がタックを組みながら改善できるように推進していただければと思います。

神代建設部長 商店街の並びについても、重点の候補地の一つとして位置づけられております。景観については、当然そこに居住されている方々の賛同が必要になりますので、調整しながらどのような景観、町並みがよいかということについて、継続して取り組んでまいります。

石田産業振興部長 先ほど委員からインバウンドをはじめとした観光客の誘致拡大という

お話がございました。6月には台湾高雄市で物産展を行い、本市の魅力のPRをさせていただいたところです。また来年2月には市長を団長として、高雄市、台北市の訪問も計画しているところですが、しっかりと本市の魅力をPRして氷見への誘客を図りたいと考えております。また3月には中国寧海県を訪問し、そちらの方でも氷見のPRに努め、誘客を図りたいと思います。関西圏への新幹線の話もありますので、関西方面の方にもしっかりと本市の魅力をPRし、また観光協会さんとも協力し合って国内外からの誘客の拡大を図っていきたいと考えております。

委員 インバウンドで海外のお客様を迎えた時に、戦略的にIoT、ICTなどもフル活用して、QRコードの読み取りで市内の観光地が分かるような観光地整備の推進をお願いしたいと思います。

委員 プランの23番の「RPAの利用促進」では、新たなRPAの導入数が4件となっています。当社でも5年ほど前からこのRPAに取り組んでおり、ルーチン業務などでは人件費などの経費の削減ができています。もう少しきちんと業務の棚卸しをして、どの業務がRPAにできるかということを確認にすれば、もっと件数が増えるのではないかと思います。当社でも間接業務は属人化、その人しかできない業務が多々ありますので、現場ばかりの多能工化（一人の職員が複数の業務をこなすこと）ではなく、間接業務の多能工化も進めています。いくつ業務があるかに対して、どれだけ多能工化ができていくかというような指標を取ってやっていけばいいのではないかと思います。そういうことができれば、男性の育児休暇や長時間労働の削減にも少しは繋がると思いますので、参考にしていただければと思います。

大嶋会長 このRPAにつきまして、どの部署で活用できるのか、あるいはどの仕事に利用しているのでしょうか。

出戸企画政策部長 業務の見える化、業務の内容をしっかりと整理をすることが大事であり、仕事の効率化にも繋がりますし、DXを活用していく中でも必ず必要になってくるところでございます。そのため本市としては、今後まずそこに取り掛かろうと考えております。それぞれの職員の業務の見え

る化と細分化を行い、DXで使える部分がどの部分なのかということを確認させて、DXを進めてまいります。

西中デジタル化推進班長 RPAは、具体的には財務会計などの内部事務システムの自動化に導入しています。昨年度4件の目標に対して実績が3件となっていますが、この4件は、プログラムの開発件数が4件ということで、標準的な開発量で4件を見込んでいましたが、昨年、時間を要するプログラムを一つ手掛けたため、件数的には1件減りましたが、量的には充実していると思っています。令和7年度には国が仕様を定めた標準システムに移行する予定であり、その動向も見極めてどのような業務にRPAを導入すればよいか今後考えていきたいと思っています。

委員 プランの21番の「DX推進計画の策定完了」、26番の「デジタル人材の育成」など、DXという言葉が見られます。我社もDXに取り組み、いかに省力化や効率化するかということが課題であり、全職員のICTパスポートの取得など、色々な取り組みを行っています。デジタル人材の育成ということで、このICT研修の内容や、この後どのような取り組みをやっていくのかという点について教えていただけたらと思います。

西中デジタル化推進班長 今年度は、各課でDX推進リーダーを1人選任し、研修を受けております。このリーダーが中心となり、DXに関する意識の醸成を図る、あるいは各課のDXを積極的に推進していくことを考えております。それ以外にも通年、あるいは定期的に講師をお招きして職員を対象に研修を行い、DXの意識の醸成を図っていきたくて考えております。そのような機運が出来上がってくれば、パスポートの取得など次のステップを考えていきたいと思っています。

委員 14番の「人材育成基本方針の見直し」で、入庁10年目までの職員のうち能力評価A判定以上の職員の割合を15%以上という目標に対し、令和4年は13%と未達成になっています。また15番の「自律的学習風土の醸成と組織が支援する仕組みづくり」では、職員提案研修制度に基づく研修の実施数2回以上という目標に対し、令和4年の実績は0回となっています。官

民間問わず、若手の方々の離職率が全国的に問題になっており、特に最近の若い世代は、自分が少しでも成長している実感を求めるという傾向が非常に強いと思います。このような評価制度でも、モチベーションのアップが図られれば、自主的にこういう成長をしたいからこういう研修を受けたいというところに結びついていくのではないかと思います。積極的に若い世代の方々に責任と権限を移譲しつつ、少しでも充実感を得るように努めていただかないと、数値目標にたどり着かないと思いますので、人材育成を強化していただきたいと思います。

天坂総務課長 能力評価では、上司が職員を評価し、面談を行いフィードバックしています。その際に、本人のモチベーションを上げるということも上司の大切な能力だと思っております。また、本人が気づかない高い目標を伝えること、そしてどうすればその目標を達成できるのかということも、自分の実体験を踏まえて指導する、一緒に考えるという姿勢を上司に求めています。

職員提案研修制度では、若手職員から政策や事業の提案を募集する、いわゆるアイデアオリンピックを活用して若手職員の意欲を向上させたいと思っております。

委員 3番の「起業・創業、継業の促進」ですが、氷見市では他の市町村よりも創業塾の受講者がコンスタントに多く、最近では創業者がUターンやIターンなどの方も含めて着実に定着しているのを感じています。ただ、最近、地域の方と創業者の方とのトラブルがSNSで取り上げられていて心配しております。特に創業者の方は、長く事業を続けるためには地域住民の方との付き合いも大切だと思いますので、早めに対処するようにしていただけたらと思っております。

18番の「業務の効率化」で、庶務事務システムの導入により勤怠管理を徹底とありますが、勤怠管理システムなどをどう導入されたまたはされる予定なのでしょうか。

石田産業振興部長 創業者の方の地元とのトラブルの件につきましては、創業者の方のお宅に伺いましてお話をさせていただきました。また地域住民の方と何と

か解決できないのかということでも色々話し合いをさせていただいたところでございます。せっかくお気持ちがあつて氷見に来られて創業された方ですので、何とか精一杯のバックアップをさせていただきたいと考えております。

天坂総務課長 庶務事務システムの導入による勤怠管理の徹底ですが、職員は自席のパソコンで休暇取得の申請等ができるようになっております。また、出退勤時に打刻もできるようになっており、所属長等が1人1人の職員がどういった業務状態であるか等を把握して、職員に無理がかからないよう努めております。

委員 イメージとして、行政は出勤簿に本人と複数の上長のハンコを押し、更に残業申請の申告書等があり、そのような書類を作るのにすごく時間がかかると思っていました。今はそういう出勤簿等は廃止され、システムを使っておられるということですね。

天坂総務課長 一部パソコンが貸与されていない職員に関しては、書類での申請の場合もありますが、基本的にはパソコンが貸与されている職員は、パソコン上で全ての申請処理をしています。

委員 素晴らしいです。良かったです。最後に、今日のモニターですが、せっかく用意していただきましたが、細かすぎて読めないのも、なくてもいいです。配置するなら、読めるように工夫していただけたらと思いました。

委員 私は今、子育てサークルに携わっておりますが、17番の「多様で柔軟働き方の推進」の男性の育児休業取得率の令和4年の実績が0件でしたが、今年度は2人取得されたとお聞きし、男性の方も取得するようになりよかったです。子育てサークルでも、お父さんが赤ちゃんを連れて活動に参加してくださっている姿も見られるようになり、だんだん男性の方も子育てに関わってくださり嬉しく思います。

7番の「水需要の減少を踏まえた事業の最適化（水道）」の数値目標の料金回収率100%以上に対し、実績が106%と100%を上回っていますが、今まで未回収があったという意味でしょうか。

また、中長期財政見通しの歳入の譲与税、交付金が令和4、5年度は15億円ですが、今後16億円に増えていきます。人口が減少し、物価高の影響でとの説明でしたが、人口が減少すれば減少するのではないかと思いますので、増加していく理由を教えてくださいと思います。

神代建設部長 給水原価（水を供給するのにかかった費用）を料金で返していただくことになっています。赤字にならないために100%を下回らないことが基本原則であり、県内でもほとんどの自治体が100%を上回っています。もしそれが逆転する場合は、費用の穴埋めが必要となるため、100%を超えることが大前提となっています。

蔵田財務課長 譲与税と交付金については、人口減少で減っていく傾向にはありますが、ベースが令和4、5年度で、まずコロナ禍からの経済回復で一旦上がると見込んでおります。その後、経済成長はあるものの人口減少の影響もあり、ほぼ横ばいで推移していくという試算をしております。

委員 行政改革プランの改善点として研修が多く挙がっています。自主研修や若手からの提案研修が重んじられるということですが、自主研修という名の元の強制（研修）となり、心身に影響を与えることがあるのではと懸念しております。今後も時間外勤務の削減にも対応していただきたいと思います。

また、LINE等で日頃からタイムリーにお知らせや情報を発信していただき、市民の方からも氷見市の情報がよくわかるという声も聞いています。どうもありがとうございます。

委員 31項目に対して達成が何件、未達成が何件という形で報告していただき、非常に分かり易かったと思います。11番の「機構改革の実施」で、時間外勤務時間数24,700時間以下という数値目標に対し、令和4年度は30,948時間でしたが、通常以外の業務を除けば23,500時間と、一応目標は

達成というお話がありました。たまたま目標を達成した、それともデジタル化を推進したことによって達成したのでしょうか。デジタル化の推進ということが改善点に記載されていますが、具体的にどんな取組みをしようとしているのでしょうか。

天坂総務課長 令和4年度は、通年よりも選挙が多かったことと、マイナンバー取得向上に特に力を入れたことにより、数値目標を達成できませんでした。ただし、選挙等の特殊な業務がなければ、24,700時間以内であったという説明をしましたが、実際は未達成です。

デジタル化の推進については、先ほどRPAの説明もしましたが、例えばこれまで32時間を要していたものが、自動処理により約7時間で終わるなど、省力化できるものがありますので、こういった業務をどんどん取り入れて職員の時間外勤務時間を削減し、削減した時間を活かして市民サービスに役立てていきたいと思っております。

東軒総務部長 今、我々はタブレット端末を使用していますが、このタブレット端末を活用したペーパーレス会議システムを導入しており、印刷などの業務の省力化もしております。また、今年の2月から議会对応についても、タブレットなどを使用して会議を開催しており、そういった点でも省力化、時間外の縮減、経費の節減に繋がっております。

委員 色々な業務がある中で、時間外勤務時間数を24,700時間に収めていきたいという目標を掲げて取り組まれるということで、デジタル化の推進について色々お話を聞かせていただきました。しっかりと推進していただき、目標以内に収めるように努力していただければと思います。

委員 18番の「業務の効率化」で、時間外勤務上限時間数及び月数の超過者が1名となっていますが、どのような経緯で業務の偏りがあったのか、またこの方に関してはメンタル不調に対する対応がされているのかお聞かせいただければと思います。

天坂総務課長 選挙とマイナンバー等の業務のうちの一つの業務について、主となって行っていた職員であり、他の職員と仕事を分担するように努力はして

おりましたが、結果として超過したということです。時間外勤務上限時間数及び月数の超過者に対しては、産業医との面談を実施し、業務が過度にならないように、所属長も含めてその後のフォローもしております。

委員 これからは多様な働き方ということで、育児休業の取得率が向上していくと思いますので、個々の業務の平準化を進めていただきますようよろしく願いいたします。

大嶋会長 発言も一通り出たようでございますので、これで協議を終了したいと思えます。貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございます。今後大いに参考にさせていただければ幸いです。これで本日の案件は全て終了いたしましたので、事務局に進行をお渡しいたします。

若松総務課長補佐 会長の大島様、副会長の高木様、本日はありがとうございました。
閉会にあたり、市長から一言ご挨拶を申し上げます。

林市長 本日は皆様方から熱心なご意見を承りました。市としましても、中長期的に財政見通しを立てながら、しっかりと政策を実行していくことが大事だと思っております。

毎年、出生数が減少しておりますので、子育て施策にも力を入れているところですが、出生だけでは人口減少は止まりませんので、移住者に対し空き家の仲介も行っております。昨年度の移住者は210人余りと、平成30年度と比較し、約2.2倍に増加しており、子育て施策あるいは移住施策などにより、氷見が住みやすいという風潮が少しずつ広がってきていると思っております。

また市内の創業者についても、この5年間で約50件の新規出店があり、大変嬉しく思っております。

財政状況ですが、芸術文化館に係る費用の約50億円のうち約20億円は国の補助金を充て、残りの30億円は有利な過疎債を活用しております。現在、市債残高は約250億円ですが、令和14年度には約169億円と見込ん

でおり、約90億円減額する計画になっています。芸術文化館の30億円につきましては、今年度、過疎債ということで、国から7割が地方交付税として補填されるため、市の負担は実質約9億円となりますが、昨年度減債基金に積み立てをしており、将来の返還に備えております。

そのようにやりくりしながら、今後の国の異次元の子育て政策もしっかりと見据え、子育て施策にも取り組んでまいります。今年度、県下で初めて、第1子1歳以上児の保育料の無償化を行い、また高校生相当までの医療費の無償化もスタートしましたが、やはり、子育て世代の負担が大きい状況は変わりませんので、今後もしっかりと子育て施策を推進しながら、必要に応じて、施設の老朽化等にも対応してまいります。今回の中長期財政見通しの中にも、四つの小中学校の長寿命化改修も盛り込んでおります。

また、先般報道がありましたとおり、城端線氷見線につきましては、再構築し、2年後には全駅にICカードの改札機導入、5年後には現在の24両の車両を34両に、氷見線の本数を現在の36本から60本程度に増やしてパターンダイヤ化する計画となっております。そして5年後には、JR西日本からあいの風とやま鉄道に移管し、その後は高岡駅での直通化を検討しております。これにつきましても財政負担を伴いますが、今回の計画には含まれておりませんので、毎年中長期の財政見通しを見ながら、新規の投資などをしっかりと判断し、市民の皆さんが住みやすく働きやすい、そして子育てしやすい氷見になりますよう、市としてもしっかりと取り組んでまいります。色々な場を通じて、市民の皆様にもご説明をしながら、ご理解を得て施策を進めてまいります。今日は本当に色々なご意見を賜りました。今後の行財政改革の参考にさせていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。